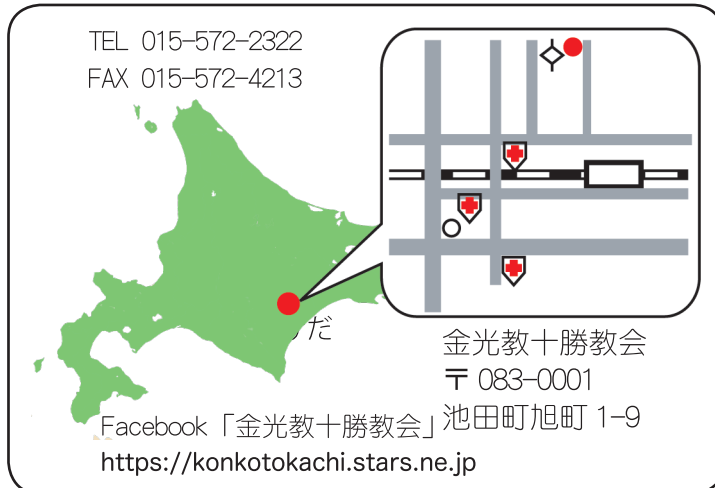




十勝教会
だより
100



Facebook



教会 HP (PC)



金光教公式 HP

教祖一四〇年 教祖様と神様の出会い

金光教十勝教会

今回は教祖様のお話です。

今年は教祖・生神金光大神様がお亡くなりになってちょうど一四〇年。本部をはじめ各地の教会では秋の御大祭を教祖一四〇年の御大祭としてお仕えます。



浅口市金光町大谷
にある教祖奥城

さて、その教祖様ですが、最初から教祖だったわけではありません。そもそも御在世中に「自分はあくでも百姓だ」、「私は、たまたま神様のおかげを受けたはじめの人間に過ぎない」と語っていたように、自分が神様の教団をつくり、リードしていくなど考えもありませんでした（教団ができるのは^{注1}

教祖様の死後）。

教祖様は江戸時代末期、文化十一年注②うらみ
備中国占見村注②の農家・香取家かんどりの次男と
して生まれ、十二才で大谷村注③の農家・
川手家（後に改名して赤沢家）に養子入
りします。

養父の死にともない二十三才で家督・田畑を相続し、同じ年に結婚します。

ちなみに、時代はちょうど天保大飢饉と重なります。全国で百万人以上の餓死者をだし、田畑を失う農家が多かったにもかかわらず、教祖家（赤沢家）は逆に田畑を増やしていました。もともと赤沢家自体が堅実だったようですが、併せて勤勉で何事にも丁寧な教祖様の働き、農業経営の才覚が大きかったようです。注5。

がわかるエピソードがあります。当時、農家にお風呂があることが珍しかったのですが、教祖様は、結婚してすぐ、自宅の敷地に風呂（とトイレ）を新築します。その六年後には、これまた一般の農家には見られない門納屋^{注6}を新築します。またその六年後には、手狭



門納屋の例

○ 教祖が建てた門納屋は平屋建ての建て替え工事を行うなど、次々と大きな事業を行っていましたが、それができる余裕、力があつたということでしょう。

ところが、風呂の建築から五年後、長男が四才で病死します。信心深かった教祖様は、風呂建築の後に長男を亡くしたことで、「ひよつとしたら建築工事に関わって神様にご無礼があつた

か？」と考え、後の門納屋、母屋の工事にあたっては、専門家に工事の日取り方位を占ってもらい、着工前に神事を仕えるなどして、神仏に無礼のないよう細心の注意を払って工事に挑みます。しかし、門納屋工事の五年後に長女（二才）が、母屋建て替えに至って



○ 建替後の教祖の自宅（復元）は工事中に次男を亡くし（九才）、大さらにさらには飼育牛^{注8}までも病気で失つてしまふのでした（しかも二頭）。

それから五年^{注9}、四十二才、厄年を迎えた教祖様は、正月早々、厄除けを願つて村の神社をはじめ各地の寺社に参拝したのですが、ノドの病気に罹り重体に陥ります。

医者から「まず助からない」と宣告された親族たちは、最後の望みをかけ、病氣平癒の祈禱^{注10}をすることにしました。

すると、祈禱者が神がかりになり「病氣の原因は、家の建築の時の金神^{注11}への無礼」であることが告げられ、「日柄方位の占いに従つたというが、それで神に無礼せずに済んだとも思っているのか!？」と問いかけてくるのでした。

病床の教祖様は、神様からの問いかけに、心中で「このたびの建築にあたり、どのような無礼があつたのか、「凡夫」なのでわかりません。占い通りにすれば全て済んだとは思っておりません。本当にご無礼申し訳ありません。お詫び申し上げます。」と素直にお詫びしたところ、再び神様が「おまえはよくわきまえている。正月に厄に負けないよう方々の神に願つたろう。本来なら熱病に罹って死ぬところを、神がノドの病氣に変えてやった。信心していなければ死ぬところだった。」と、

病気の真相を語り、教祖様を許されたのでした。

○

日柄方位の占いとは、例えば家の建築を行う日について、凶神（金神など）禁忌を破ると祟られるといわれた神様が、いる方角、いない方角を占いで探すというものでした。「この日は、この方角に金神がいる」ので、その方角への建築は延期するなど：これは、特に当時の中国地方の農村では誰もがそうしていたことであり、常識でもありました。

しかし、後に教祖様がこの日柄方位を占うことについて「神様のいない日、場所を探して何かするということとは、空き巣をしているようなもの」と評しているように、神様に無礼をしないための占いが、実は神様からすれば無礼以外のなものでもなかったわけですね。

さらに教祖様は「日柄方位の占いなどせずに、神様にお断りして、ちゃ

んとお願いしてからさせてもらえばよい」とも言われました。「祟りをする怖い神様だから」逃げるべきだと考えられていた神様に、「ちゃんと許可を願ひ出ればいいだろう」とそれまでの常識、価値観から百八十度の転換を訴え、真をもつて接すれば、神様が願いを聞いてくれる、助けてくれると説かれたのです。

○

病床の教祖様へ「占いさえすればそれでいいと思っているのか？」という神様から問いかけが、神様のことを知らず、人間勝手に振る舞ってきたことが難儀の元になっていること、同じく「信心しなければ死ぬところだった」と教えてくれたことが、「この神様、金神様は信心すれば助けてくれる神様」であることを後々教祖様に悟らせることになったのでしよう。後に金神とは「天地金乃神」だったことが明らかとなります

教祖様は、ようやく「信心すれば助

けてくれる本当の神様」と出会われました。

○

その教祖様が農業をやめ、人々に神様のことを伝え、信心して神様に助けてもらえと説かれるようになるのが四十六才晩秋（新暦十一月十五日）のことです。

○

教祖様は特別な修行をして神様に出会い、助けられたわけではありません。農民として生活する中で、神様に真を向ける＝信心することで神様に助けられたのです。

「自分はいくでも百姓だ」、「たまたま最初に神様のおかげを受けた人間に過ぎない」と教祖様は強調します。「百姓だった私が助けられたのだから、あなただって信心さえすれば神様に助けてもらえる」と教祖様が私たちに呼びかけています。

神様に真を向け、信心しておかげをいただきましょう。



本部 教祖140年生神金光大神大祭

注釈

※1 教団は教祖様が亡くなった後、「この

ありがたい神様の信心を後世に伝え残さなければ」と考えたお弟子さん達によつて作られました。

※2

占見村^{うらみ}も大谷村も今の岡山県浅口市金光町の一部

※3

当時の農家は長男以外は家（田畑）を継ぐことができず、次男以下は商家の丁稚になるか、養子に出ることが多く、どちらもかなわない場合は、長男の家の作男（作業員）になるぐらいだった。

※4

養子入りしてすぐ、庄屋さんのもとで「読み書き算術を」学んでいます。どうも、投機の才能もあったらしい。

※5

村からもその働きぶりから一目を置かれていました。しかし教祖様本人はとても謙虚で、これまた周囲から感心されていました。

※6

作業小屋と門構えが一体となった建築物。当時は豪農の家にしかなかった。

当初教祖様は、建築用材に紀州材を使うつもりでいたが、これからも経済的な余裕が窺える。

※7

暦に基づいて、その日のどの方角にどんな神様（方位神）がいるか占い、吉凶を判断する。

※8

牛は今で言うトラクター、財産であり家族同様の存在。

※9

この間にさらに田畑を増やしている。

※10

奥さんの弟が修験道の先達だった。

※11

方位神の中では凶神。禁忌に触れると命に障る神様と言われていた。

※12

晩年の教祖様のお広前には年間のべ1万人以上の参拝者がいました。

教会日誌 令和5年8月1日から10月31日まで

8月5日 教区少年少女の集い「みどりのひろば」、小樽市。

3名参加

写真 みどりのひろば
今年は小樽水族館で海の環境や、生物
について楽しく勉強しました。



8月6日 幕別町、K家、納骨祭

8月13日 教会設立記念祭・布教功労者報徳祭

8月13日 足寄町、S家、式年霊祭

8月20日 池田町、M家、葬儀式

8月27日 池田町、M家、旬日祭

8月28日 歌志内市、Y家、式年霊祭

8月夏休み期間 教会境内で町内会ラジオ体操



写真 夏休みのラジオ体操

教会境内で町内のラジオ体操が行われました



写真 教会設立記念祭・布教功労者報徳祭
での玉串奉奠

9月6日 北海道教師会研修会、札幌市。みよ子先生出席

9月10日 金光家先祖祭、みよ子先生参拝

9月13日 函館教会布教記念祭、教会長参列、教話御用

9月19日 帯広市、S家、式年祭



写真 秋季霊祭
上・祭主祭詞奏上
下・参拝者玉串奉奠

9月23日 秋季霊祭

9月24日 帯広市、I家、式年祭

9月24日 音更町、M家、式年祭

9月30日 帯広市、M家、K家、合同感謝祭

10月1日 幕別町、Y家、新車購入交通安全祈願祭

10月1日 稚内教会大祭、教会長教話御用

10月6日 池田町、M家、合祀祭・納骨祭

10月10日 本部教祖百四十年生神金光大神大祭、代表参拝3名

10月13日 陸別町、S家、式年祭

10月14日 東京都、T家、式年祭

10月15日 札幌市、M家、葬儀式。16日も

10月20日 札幌市、M家、旬日祭

10月22日 釧路教会大祭、交流参拝

10月29日 網走教会大祭、交流参拝

やつなみ会（旧信徒会）会費納入のお願い

やつなみ会は教会施設の維持管理、祭典行事の運営補助、信者の交流を目的とした自主団体で、入退会も自由です。会の運営は会員みなさまの会費でまかなわれています。今年度の会費未納の方は会費の納入をお願いいたします。



写真 本部教祖一四〇年
生神金光大神大祭

上右・教祖金光様のご挨拶
上左・祭場内の様子
右・教祖一四〇年奉祝北海道霊地集会



写真 本部大祭翌日の
岡山観光

上右・旧閑谷学校
上左・吉備津神社（随神門）
右・備中国分寺（参道）



この後の祭典・行事のご案内

- ・薫別講社教祖140年生神金光大神大祭 12月5日前後
- ・越年感謝祭（年越大祓） 12月31日（日） 午後1時30分
- ・元日祭（令和6年） 1月 1日（月） 午後1時30分

先「親神のよぎしのまきに」斉唱

祭員参向着席

拝 礼

神前拝詞奉唱

取次唱詞奉唱

祭主祭詞奏上

祭主玉串奉奠

天地書附奉体

参拝者代表玉串奉奠

金光大神賛仰詞奉唱

※教祖一四〇年版

拝 礼

祭員退下

御神伝奉読・講師紹介

教 話

「教祖様の生涯」ダイジェスト版

♪親神のよぎしのまきに♪

一、親神の
わが生神
よぎしのまきに
取次の
代々を経て
神からも
両方の
親神の
生神を
神のひれ
照り映えて
取次の
とこしえに
金光大神
道立ちしより
今につけり
氏子からも
恩人なりと
のらし給える
讀えまつらん
木綿崎山に
日の光なす
道の靈光を
仰ぎまつらん

食 後 訓

体の丈夫を願え
体をつくれ
何事も体が元なり

食 前 訓

食物はみな人の命のために
天地乃神のつくり
与え給うものぞ
何を食うにも飲むにも
ありがたく頂く心を忘れなよ

金光教宣言

大いなる天地に生かされる人間として
すべてのいのちを認め、尊び
神と人、人と人、人と万物が
あいよかけよで
共に生きる世界を実現する



KONKOKYO
金 光 教